

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 1 - 2 5	令和 6 年度第 3 回墨田区産業振興会議 (施設視察)		
開催日時	令和 6 年 1 0 月 3 0 日 (水) 午後 3 時から午後 5 時まで			
開催場所	3×3Lab Future (東京都千代田区大手町 1 - 1 - 2 大手門タワー・ENEOS ビル 1 階)			
出席者	委員 6 人 (関 満博、長崎 利幸、川路 さとみ、清水 竜、平尾 伸子、郡司 剛英 産業観光部長) その他、産業振興課長・産業振興課職員が、事務局として、デロイトトーマツコンサルティング合同会社 (SIC 運営委託事業者) の宮内氏がオブザーバーとして参加した。 3×3Lab Future 2 人 神田主税、田邊智哉子			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	0 人	
議題	1 開会 2 3×3Lab Future 施設視察 3 意見交換 4 閉会			
配付資料	出席者名簿 資料 第 3 回産業振興会議			
会議概要	1 開会 南部課長からの開会挨拶のあと、出席者が自己紹介を行った 2 施設視察 神田氏、田邊氏から施設の概要について説明受けたあと、3×3Lab Future の視察を行った。 3 意見交換 資料に基づき、事務局から区の施策について説明を行った。 (長崎委員) ・ この施設 (3×3Lab Future) の会員はどうやって集めているのか。 (神田氏) ・ 広告は打っておらず、積極的な営業はかけていない。会員獲得はほぼ口コミ。既にコミュニティはあり、人を呼ぶ流れはできている。 ・ この施設のコンセプトを理解している会員が、新たな人を呼び込んでくる。 (長崎委員) ・ 施設開設前からの活動により、まずコミュニティが出来上がり、その活動の場が求められ、この施設ができたという理解でいいか。 ・ 先に施設を作ってしまうと、活用方法に悩む。 (神田氏) ・ 仰る通り、場を作ってから人を集めるのはなかなか難しい。内神田の再開発でも、現			

	在はこの 3×3Lab で食と農をテーマとしたコミュニティを醸成しており、場ができたタイミングで移管する予定。 (川路委員) ・ コミュニティができたということは、どのように判断するのか。 (神田氏) ・ 日々人がいる状況になると、コミュニティができたと実感できる。 (川路委員) ・ 成果指標は設けているか。 (神田氏) ・ プロジェクト創出数。 ・ 成果が見えにくいので、どう伝えるかが難しい。 (平尾委員) (平尾委員) ・ 開設前後にはどのようなイベントを行っていたのか。 (田邊氏) ・ もともと社会課題解決を志向し、ビジネスマッチングではない緩やかな繋がりを作るというコンセプトが 18 年間ブレていないところが、コミュニティとしての地盤が固まった最大の要因であると考えている。 ・ ここは、どんな場なのかをはっきりさせ、広く伝えていくことが大切。 (郡司委員) ・ コミュニティにはテーマがいるが、特定のテーマに人が集中したり、人気のないテーマは自然消滅したりすることがあるのか。 (神田氏) ・ 運営側からテーマを与えることはない。利用者側から自然発生的にテーマが生まれる。 (田邊氏) ・ どんなテーマでもいいというわけではないので、運営サイドも加わって練り上げたうえで開催してもらっている。 (郡司委員) ・ この施設でやってはいけないことはどういうものがあるのか。 (田邊氏) ・ アイドルの握手会や会社の打ち上げなど、(社会的意義)のない催しは不可。施設のブランドを毀損してしまう。 ・ ここは、インキュベーション施設ではなく、社会課題解決のプロジェクトを芽生えさせる場。 (郡司委員) ・ リビングラボに近いのか。 (神田氏) ・ 非常に近い。 ・ ここで生まれたプロジェクトが進展すれば、資金調達や土業への相談など、ニーズに応じて地域内の他の施設へと活動の場を変えていく。 (郡司委員)
--	---

	・ シード期のスタートアップとの相性がよさそうだと感じる。 (神田氏) ・ 社会課題を解決したいがどうすればいいのかわからないような、シード期でもかなり前期の方との相性は良い。 (郡司委員) ・ 学の関与はあるのか。 (神田氏) ・ 東京学芸大学と連携している。 ・ 再開発等の際にオフィスと学校の融合を目指すという方針があり、ワーカーと学生の接点創出を目指している。 ・ また、東大とも連携協定を締結し、リスキリングやまちづくり面での活動をしている。 (郡司委員) ・ 公はあまり関係していないのか。 (神田氏) ・ 再開発や公道利用の面で千代田区との絡みがある。 (郡司委員) ・ 住民がいないという点では墨田区と大きく違う。 (神田氏) ・ かなり特殊な環境で、もめごとは少ない。 (田邊氏) ・ 休日はシャッター街となり、誰もいない環境だった。これをなんとかしようと様々なプロジェクトが生まれてきた。 (関座長) ・ ここから生まれたプロジェクトで大きく成長したものはあるか (田邊氏) ・ 写真部のプロジェクトが、大手町のフォトアーカイブ化されたほか、イベントで使うターポリン製のバナーを服飾品や小物にアップサイクルするプロジェクトがある。 (川路委員) ・ 色々な人が話をしているが、そういう人たちとの最初のコミュニケーションはどのようにしているのか。 (田邊氏) ・ 最初は我々ネットワークコーディネーターの役割。はじめに、どういう風に社会課題と向き合っているのか、どのようなバックグラウンドを持つ人なのか等について面談している。 ・ その情報がインプットされていると、利用者同士の接点をイメージして繋げていく。 (清水委員) ・ 会員の構成は。 (神田氏) ・ ベンチャーと個人事業主が7~8割くらい。 (郡司委員) ・ ネットワークコーディネーターは何人いるのか。
--	---

	(田邊氏) ・ 現在は 2 名。 (郡司委員) ・ SIC に個人のネットワークコーディネーターはいないが、地域を良く知る個人のコーディネーターの必要性は感じている。 ・ この取組の成功のイメージはどのようなものか。 (神田氏) ・ 我々も苦労しているが、丸の内朝大学の取組は、働き方や世の中を（少しでも）変えた点（朝活という言葉を生んだ）で、成功イメージに近い。 ・ 定量的に成果を表すのは難しく課題である。定性面と組み合わせるなど KPI、KGI など、設定方法も考える必要がある。 5 閉会 南部課長が閉会の挨拶を行った。
所管課	産業観光部産業振興課産業振興担当（内線：5 4 3 3）